

9 外国語（英語）

（１）第１学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

１年生の学習状況については、定期考査、授業評価アンケートや授業の様子から、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、「先生の話し方ははっきりして聞き取りやすいか」「黒板に書く字などは見やすく、分かりやすいか」「先生の説明は分かりやすいか」「生徒の質問に対してていねいに答えてくれるか」について、９６％以上の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。教師の努力を生徒は評価していると思われる。
- ・ 同アンケートの「英語に対して興味・関心があるか」について、「あてはまる」が４６％、「ややあてはまる」が３８％で、合わせて８４％である。小学校での外国語科の授業で興味・関心をもって取り組んできたものと思われる。しかし、まだ約１５％の生徒が興味・関心がないので、授業の工夫が必要である。
- ・ 「授業の進む速さはちょうど良いか」の項目について、７６％の生徒が「ちょうど良い」と回答したが、他の項目と比較するとやや劣る。１６．７％の生徒が「やや早い」と回答しているため、２学期以降の進め方に工夫が必要である。
- ・ 英検３級や準２級に合格している生徒もいるが学力の個人差がとても大きく、丁寧な指導が必要である。

イ 学力の状況

１年生の外国語（英語）の学力について、以下の傾向が見られた。

- ・ デジタル教科書や教員の音声に合わせて、英語を発音することは自然にできる。英語の発音やイントネーションを真似して発声できている生徒が多い。声量も大きい。
- ・ 個人差が大きく、一斉授業の中では文法理解に難しさを感じる生徒がいる状況である。
- ・ 音声による知識があり、「話すこと」にとるやり取りは自然にできる生徒が多い。学んだ表現を読んだり書いたりしながら、自分のことを発信する表現力を高めることが必要である。
- ・ 音声で覚えた単語や文法の知識を文字と一致させ、自分の表現として発信できる力を身に付ける必要がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英単語、英語表現や文法を自己表現に活用し、運用する力を付ける。
- ・ 既習の基本的な文法を用いて話す力を身に付ける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ グループ活動やペア活動を短時間に制限しつつ、音読練習、ALTを含む教師との対話、生徒の個人発表活動の時間を確保するよう努める。
- ・ 音読指導の方法を工夫し、できる限り多く繰り返し発音することにより、教科書をすらすらと大きな声ではっきりと音読できるようにする。
- ・ 書く力を伸ばすために、授業における書くことの活動の内容と量を確保する。家庭学習での課題で、授業で学んだ新しい文法や知識を定着させる。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、特に聞き取りや読み取りのポイントなどを指導する。
- ・ 話すことや書くことの力を伸ばすため、授業における話すことや書くことの活動の内容と量を工夫する。
- ・ 英語に対してさらに興味・関心をもってもらうために、短時間で、教材に関する動画や単語ゲームなどを取り入れて、英語が苦手な生徒でも親しみやすい内容にする。

③ 授業改善案

ア 言語活動授業への取組

- ・ コミュニカティブな活動としてペアやグループワークをできる限り取り入れ、必要に応じて個別の指導もしていく。
- ・ 既習事項を使った表現活動を行い、復習をしつつ定着を図る。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業での目標を明確にし、何ができれば目標を達成できたことになるのかを生徒に分かりやすく提示する。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒には、個別に声を掛け、放課後学習教室の利用も促す。

ウ 家庭学習の定着

- ・ その日の授業内容を復習できるような学習課題を設定することで、授業内容と家庭学習の内容をサイクル化できるよう努める。

エ その他(ICT 機器の活用等を含む)

- ・ 学習者用端末の活用法を工夫する。英和・和英辞書としての使い方や作文の自己添削としての Google 翻訳の利用法など、適切な使用方法を指導し、各自の学習進捗や状況に応じて利用する。
- ・ デジタル教科書に付属しているビデオ教材やパワーポイント、音楽や映像等を使って、実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに、会話の際の話し方を身に付けさせ、興味・関心を高める。

9 外国語（英語）

（１）第２学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

２年生の学習状況については、定期考査、授業評価アンケートや授業の様子から、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、「先生の話し方ははっきりして聞き取りやすいか」「黒板に書く字などは見やすく、分かりやすいか」「先生の説明は分かりやすいか」「生徒の質問に対していていねいに答えてくれるか」の項目について、およそ平均 98% の生徒が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した。
- ・ 同アンケートの「英語に対して興味・関心があるか」について、「そう思う」が 48%、「どちらかというと思う」が 31% で、合わせて 79% である。
- ・ 英検 3 級以上に合格している生徒もいるが学力の個人差がとても大きく、丁寧な指導が必要である。

イ 学力の状況

２年生の外国語（英語）の学力について、以下の傾向が見られた。

- ・ 音声による単語の知識はあり、文法の理解もある程度できているが、単語を書いたり、文章を書いたりすることが苦手である。そのため、定期的に単元テストを行い、英作文の指導にも力を入れる必要がある。
- ・ 音声で覚えた単語や文法の知識を文字と一致させ、自分の表現として発信できる力を身に付ける必要がある。
- ・ 一斉授業の中では、英語の音を聞き取って真似たり文法の説明を理解したりすることが難しいと感じる生徒には繰り返し指導する必要がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英単語、英語表現や文法を自己表現に活用し、運用する力を付ける。
- ・ 授業で学習した内容を定着させるため、家庭学習に取り組むことが必要である。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ グループ活動やペア活動など学習形態を工夫して、教科書の音読練習、ALT を含む教師との対話、プレゼンテーションの時間を確保するようにする。
- ・ 文法のドリル演習の際は個別指導を充実させ、反復学習により文法事項を定着させ、単元テストを行う。
- ・ 書く力を伸ばすために、授業における書くことの活動の内容と量を工夫する。家庭学習として定期的なワークブックの取組や文法演習を通して、授業で学んだ新しい文法や知識の定着を図る。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、特に聞き取りや読み取りのポイントなどを指導する。スモールステップで取り組み、理解しやすい工夫をする。
- ・ 生徒同士での学び合い、教え合いの時間を設定し、主体的に学習する姿勢を身に付ける。
- ・ スピーチ、プレゼンテーション、QA テストなどのパフォーマンステストをすることで、学んだことを自分の表現として使える英語に変えていく。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 英語を使う場面を意識したペアやグループワークを多く取り入れ、言語活動に明確な意味をもたせる。
- ・ 学力の個人差に留意し、ペアを工夫し、助け合いによるペア・グループワークが成立するよう配慮する。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ **Today's Goal** を毎時間提示し、何ができれば目標が達成なのかを常に意識させる。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒には、個別に声を掛け、補習なども検討する。

ウ 家庭学習の定着

- ・ その日の授業内容を復習できるような学習課題を設定することで、授業内容と家庭学習の内容をサイクル化できるよう努める。
- ・ 単語の綴りと意味を定着させるため、単語テストを行う。

エ その他(ICT 機器の活用等を含む)

- ・ デジタル教科書に付属しているビデオ教材、パワーポイント等を使って、実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに興味・関心を高め、会話の際の話し方を身に付けさせる。
- ・ 学習者用端末を積極的に活用する。具体的には、学習者用デジタル教科書、学習アプリ、グループスライド、フォームなどを各自の学習進捗や状況に応じて利用する。

9 外国語（英語）

（3）第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況については、定期考査、授業評価アンケートや授業の様子から、以下の特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートでは、「先生の話し方ははっきりして聞き取りやすいか」「黒板に書く字などは見やすく、分かりやすいか」「先生の説明は分かりやすいか」「生徒の質問に対していてねいに答えてくれるか」の項目について、平均98%の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。
- ・ 同アンケートの「英語に対して興味・関心があるか」について、「そう思う」が50%、「どちらかというと思う」が23%で、合わせて73%である。2年生の時より、3ポイント興味・関心が下落している。
- ・ 英検3級以上に合格している生徒が70人程度存在する。しかし、英語の文法や語彙の理解が英語でのやり取りや英語で文章を書くことを難しく感じている生徒も多く、繰り返しの指導が必要である。
- ・ リスニングに苦手意識を感じている生徒も多く、繰り返し英語音声を聞く機会が必要である。

イ 学力の状況

3年生の外国語（英語）の学力について、以下の傾向が見られた。

- ・ 綴りによる単語の知識はあるが、音と単語がつながっていないことが多い、文法の理解はできてきている生徒もいるが、その力が読むことや書くことにつながっていない。そのため、授業内で長文の読解や英作文の指導を行う必要がある。
- ・ 音声で覚えた単語や文法の知識を文字と一致させ、自分の表現として発信できる力を身につける必要がある。
- ・ 個人差が大きく、一斉授業の中では、英語の音を聞き取って真似たり文法の説明を理解したりすることが難しいと感じる生徒には丁寧な指導が必要である。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 学習した英単語、英語表現や文法を自己表現に活用し、運用する力をつける。
- ・ 授業で学習した内容を定着させるため、家庭学習に取り組むことが必要である。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ グループ活動やペア活動など学習形態を工夫して、教科書の音読練習、ALTを含む教師との対話、生徒の個人発表活動の時間を確保するよう努める。
- ・ ワークシート取組時の個別指導を一層充実させ、反復学習により文法事項を定着させることで身近なことを表現する力を身につける。
- ・ 書く力を伸ばすために、ワークシートやロイロノートを使った英作文シドが必要である。
- ・ 聞くことや読むことの力を伸ばすため、特に聞き取りや読み取りのポイントなどを指導する。スモールステップで取り組み、理解しやすい工夫をする。
- ・ 生徒同士での学び合いの時間を取り、主体的に学習する姿勢を身につける。
- ・ スピーチ、プレゼンテーション、音読テスト、QAテストなどのパフォーマンステストをすることで、学んだことを自分の表現として使える英語に変えていく。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 英語を使う場面を意識したペアやグループワークを多く取り入れ、言語活動に明確な意味をもたせる。
- ・ 即興性を意識し、その場で与えられたトピックでの会話をとおして、既習事項を使った表現活動を行う。
- ・ 帯活動に AI による音読練習を取り入れ、個別で振り返りを行う機会を作る。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 授業での目標を明確にし、何ができれば目標を達成できたことになるのかを生徒に分かりやすく提示する。
- ・ 指示や説明を簡潔・明確にし、板書や掲示物を工夫する。
- ・ タブレットの課題については指示内容と期限もわかりやすく提示する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒には、個別に声を掛け、放課後学習教室の利用も促す。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 単元ごとの小テストを行い、スモールステップでの学習内容の定着を図る。
- ・ 単語の綴りと意味を定着させるため、単語テストを行う。

エ その他(ICT 機器の活用等を含む)

- ・ デジタル教科書に付属しているビデオ教材、パワーポイント等を使って、実際の英語の使用場面や状況を理解するとともに興味・関心を高め、会話の際の話し方を身に付けさせる。
- ・ 生徒の解答をタブレットを利用して生徒同士で共有する。